

コンテキストを中心とする ゴール整合方法の提案

南山大学 数理情報学部 情報通信学科

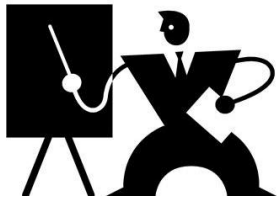
2008MI252 津川 夏海

2008MI261 和田 百世

指導教員 青山 幹雄

シナリオ

- ゴール整合プロセス
- 例題への適応
- 今後の課題



プロセス

成果物

(1) ビジネス分析

(2) トップゴールの分析

(3) 戦略ゴールの決定

(4) 戦略の決定

(5) 戦略ゴール木の分析と
コンテキストとの関連付け

ビジネスユースケース図

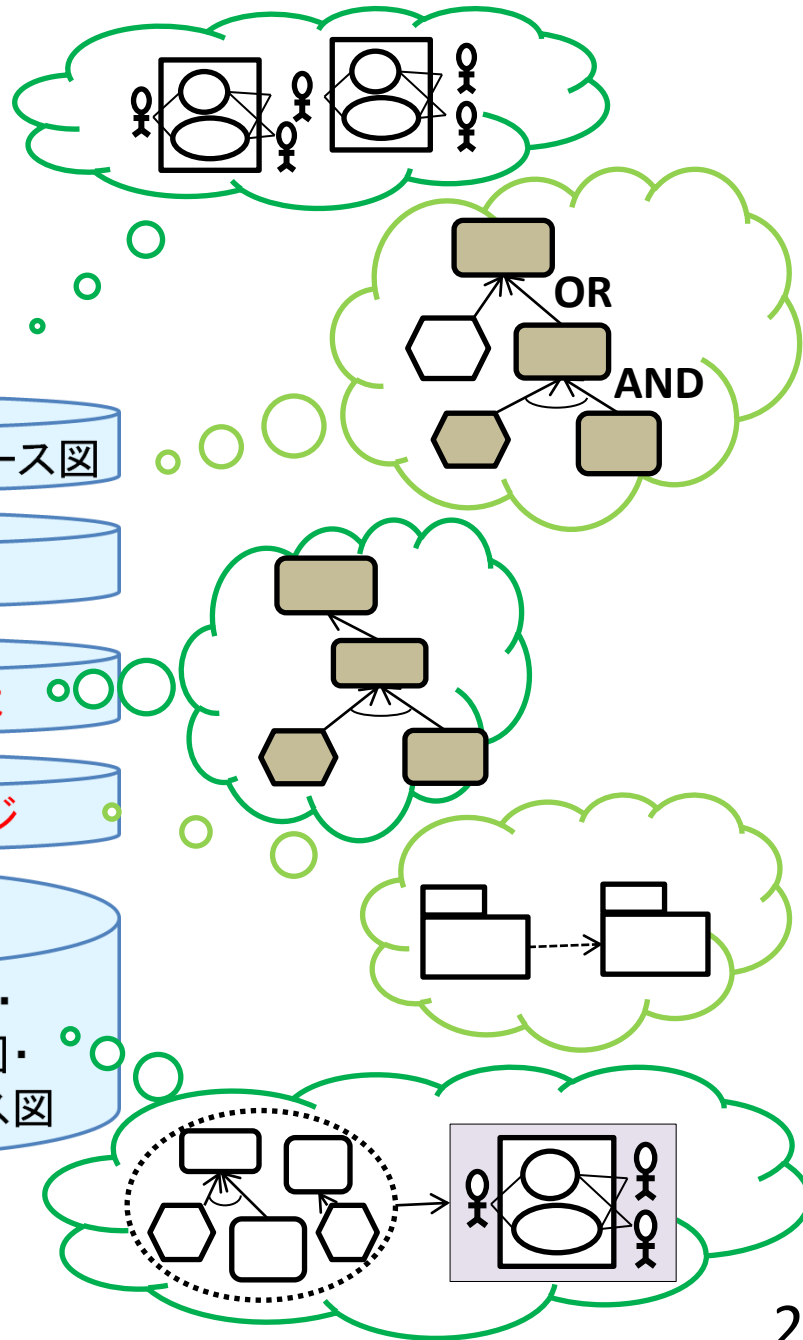
ゴール木

戦略ゴール木

戦略パッケージ

戦略ゴール木・
ユースケース図・
ミスユースケース図

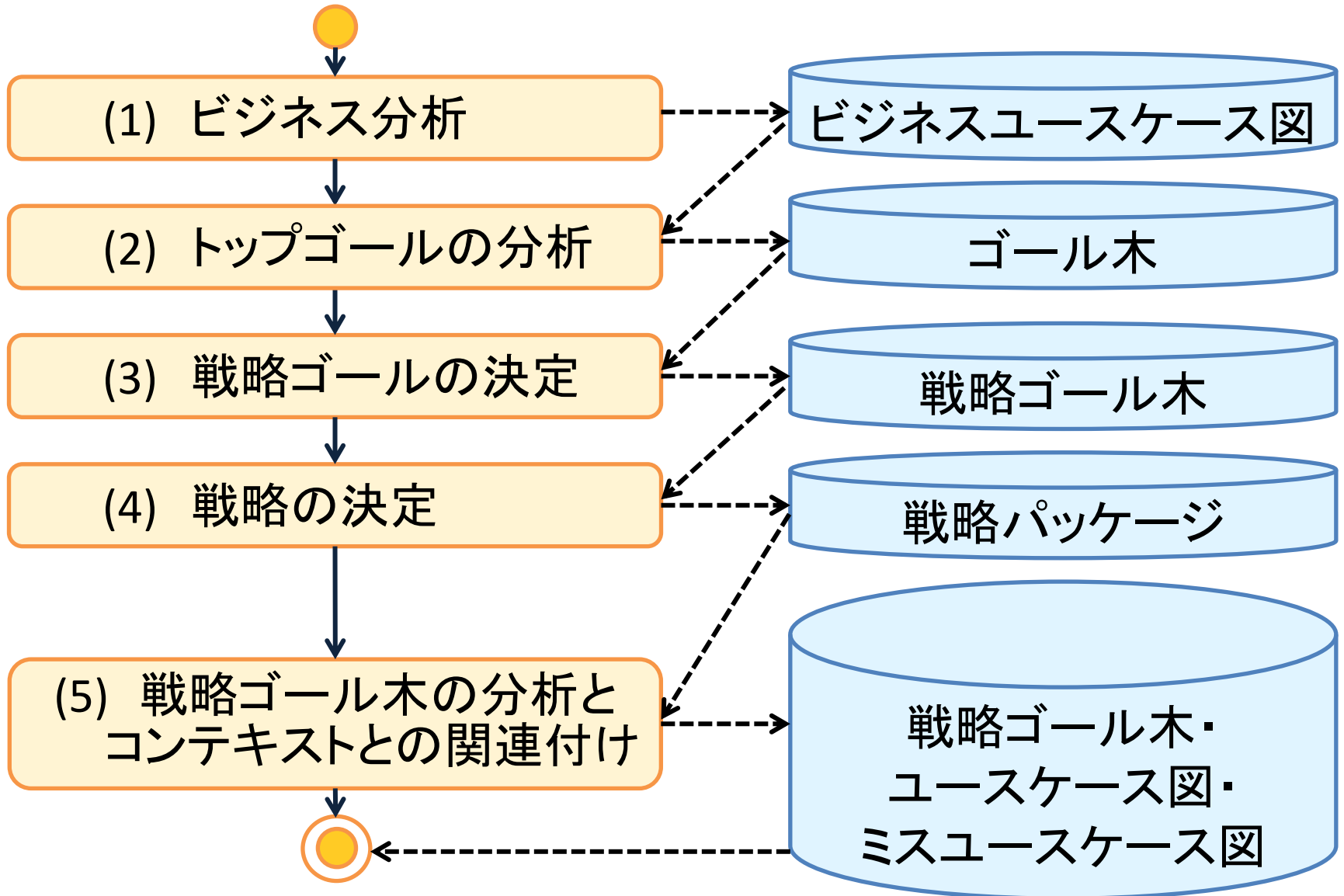
ゴール整合方法の提案プロセス



ゴール整合プロセス

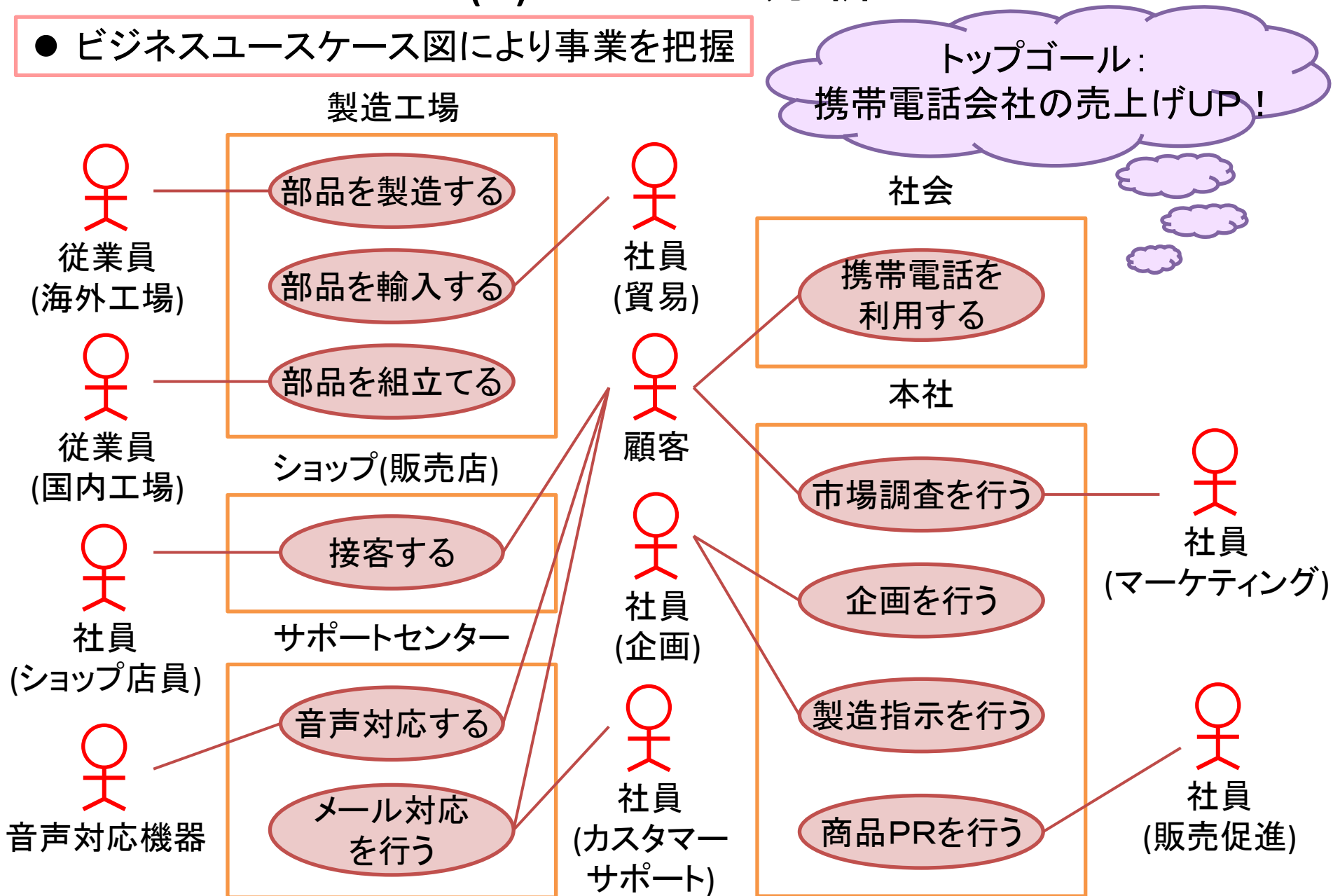
プロセス

成果物

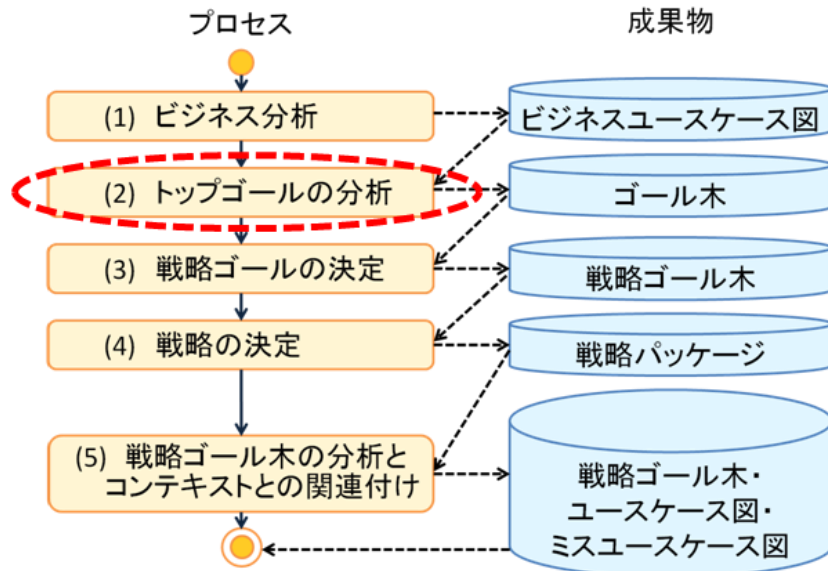


(1) ビジネス分析

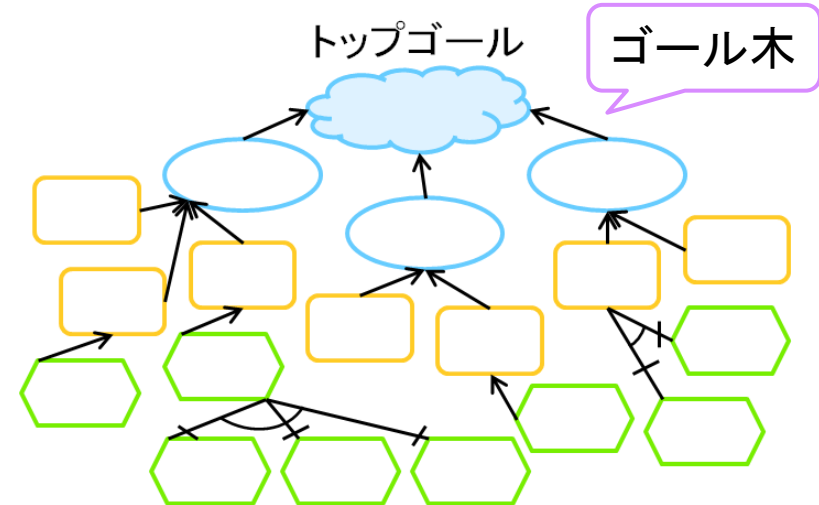
- ビジネスユースケース図により事業を把握



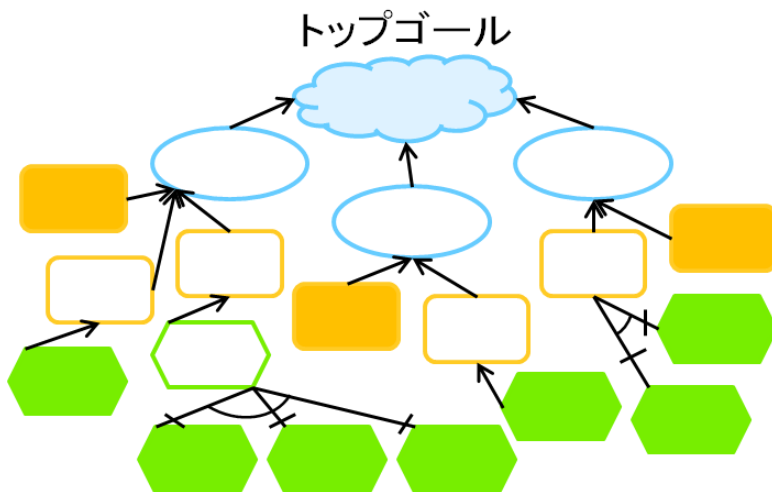
ゴール整合プロセス★(2)



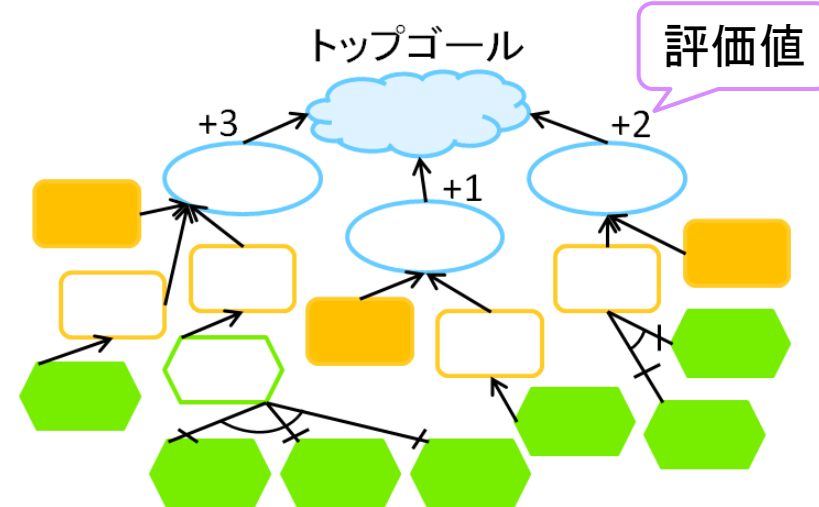
1. トップゴールをゴール指向分析で分析



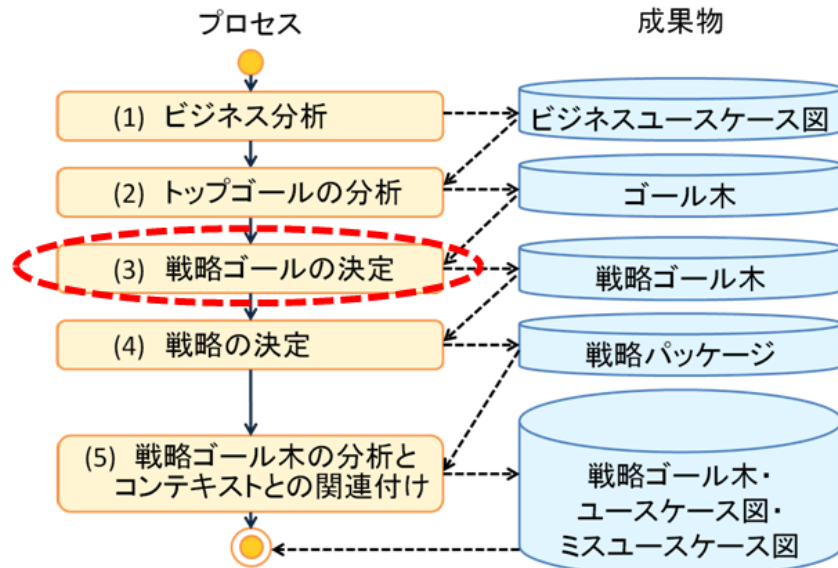
2. 戦略ゴールの選択領域を表示(塗り潰し)



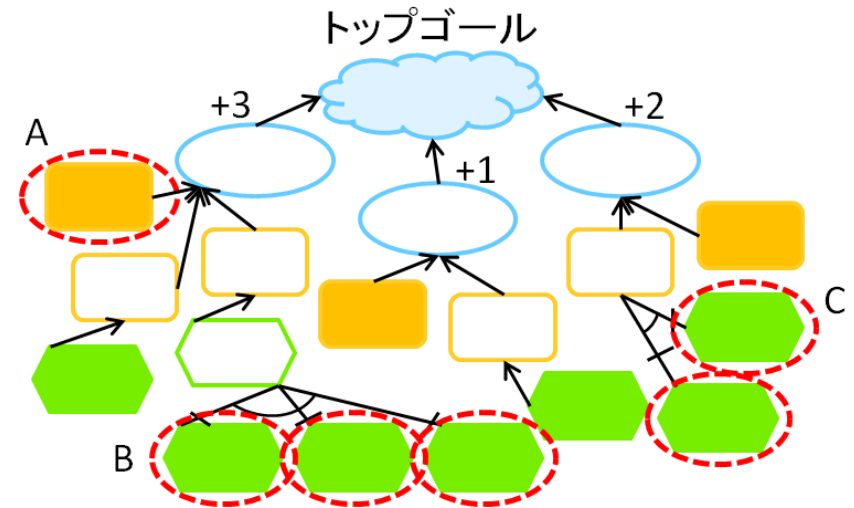
3. トップゴールと選択領域の貢献度評価



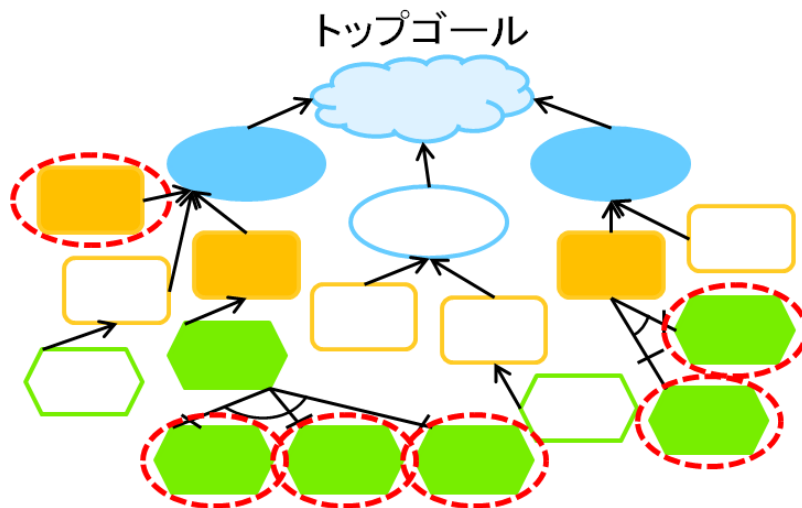
ゴール整合プロセス★(3)



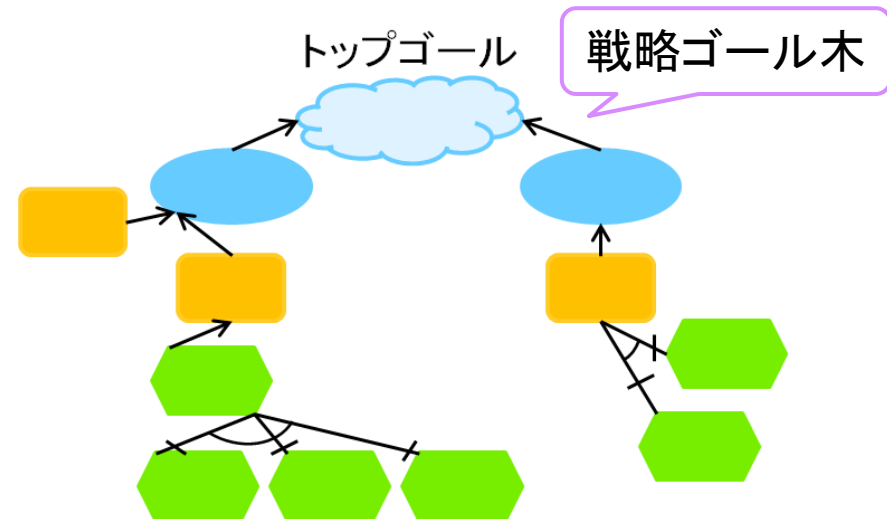
1. 戦略ゴールの決定(参考:前頁評価値)



2. 戦略ゴールのゴール木を表示(塗り潰し)

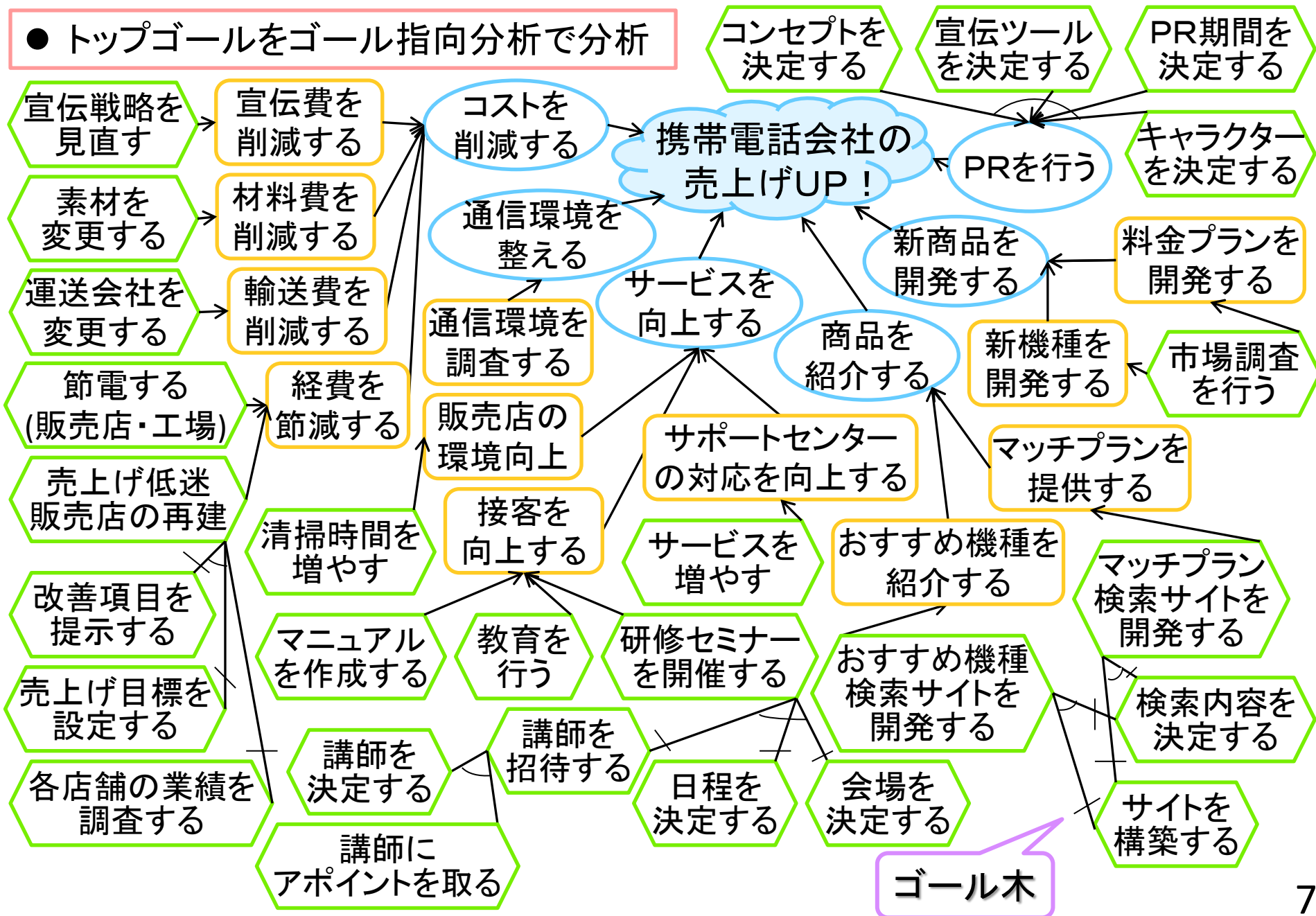


3. 2.のゴール木が戦略ゴール木となる



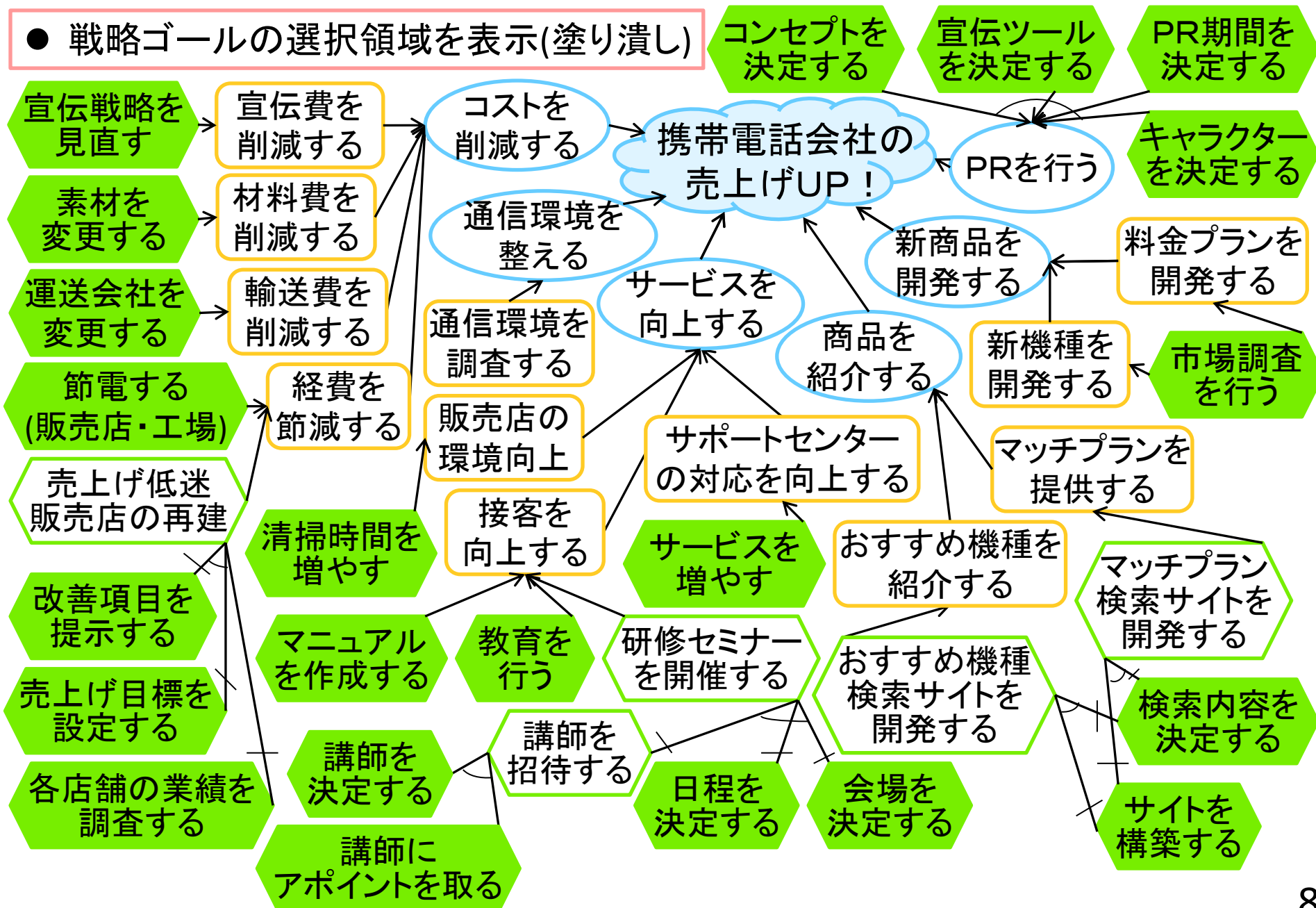
(2) トップゴールの分析[1/3]

● トップゴールをゴール指向分析で分析



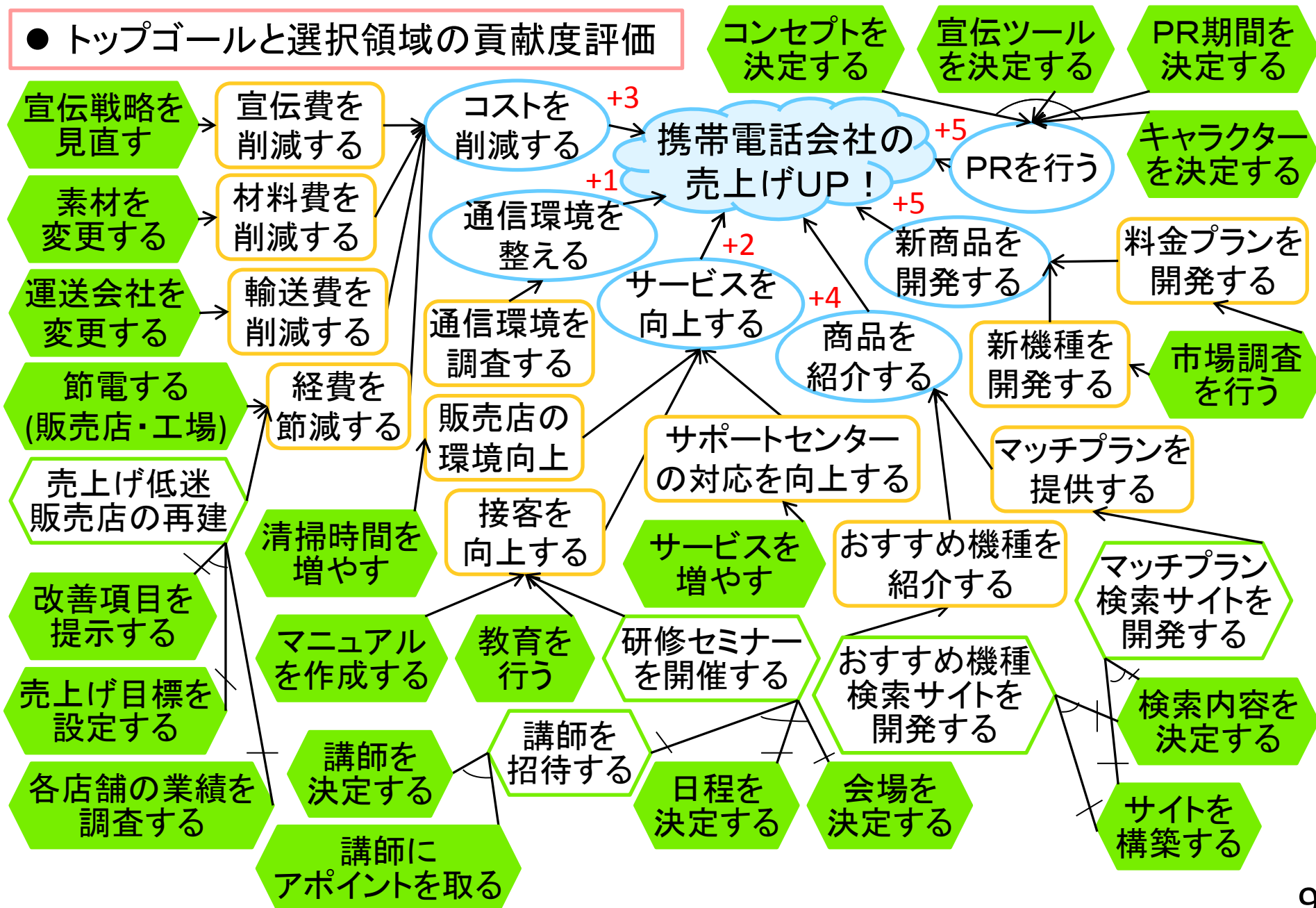
(2) トップゴールの分析[2/3]

- 戦略ゴールの選択領域を表示(塗り潰し)



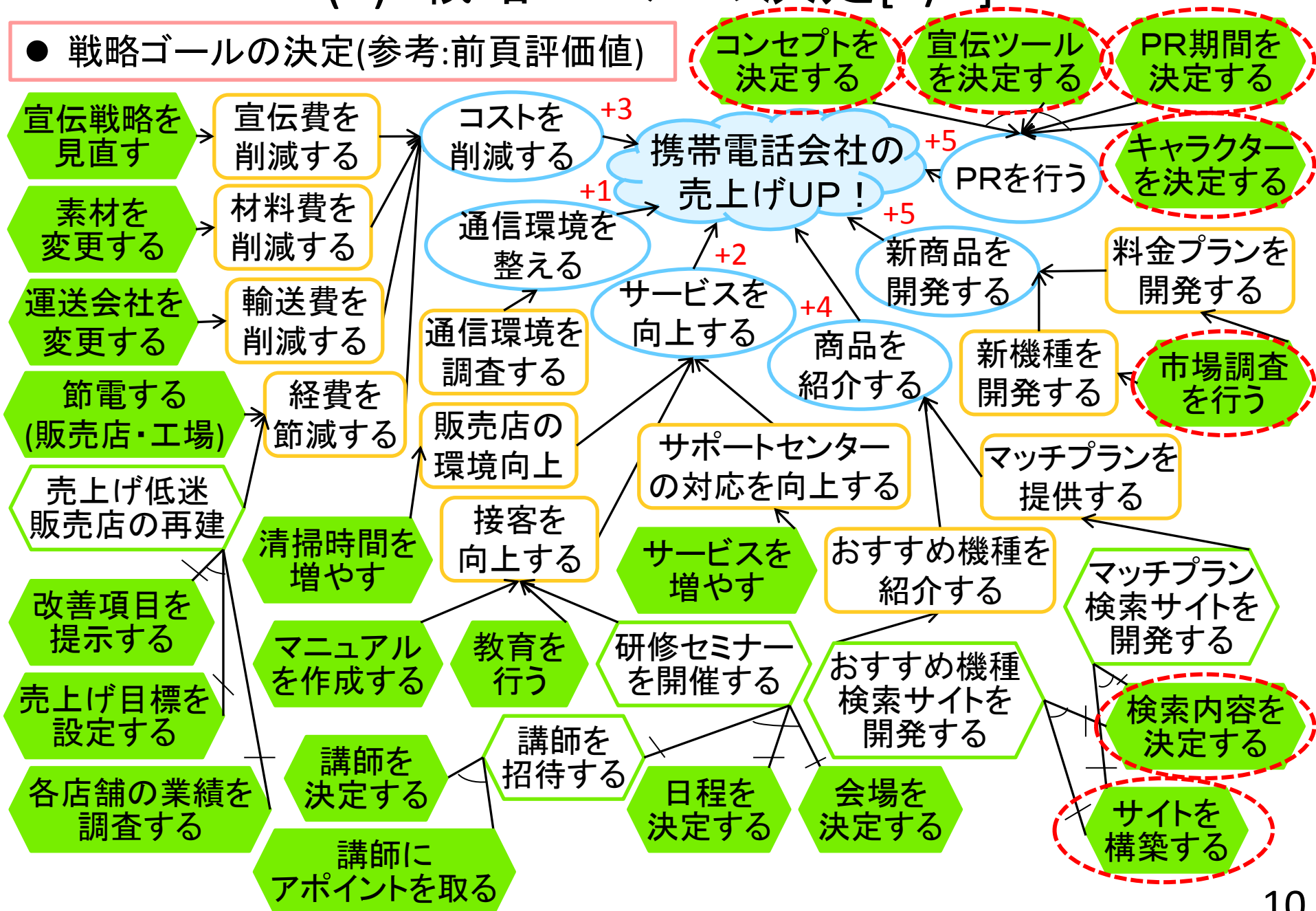
(2) トップゴールの分析[3/3]

● トップゴールと選択領域の貢献度評価



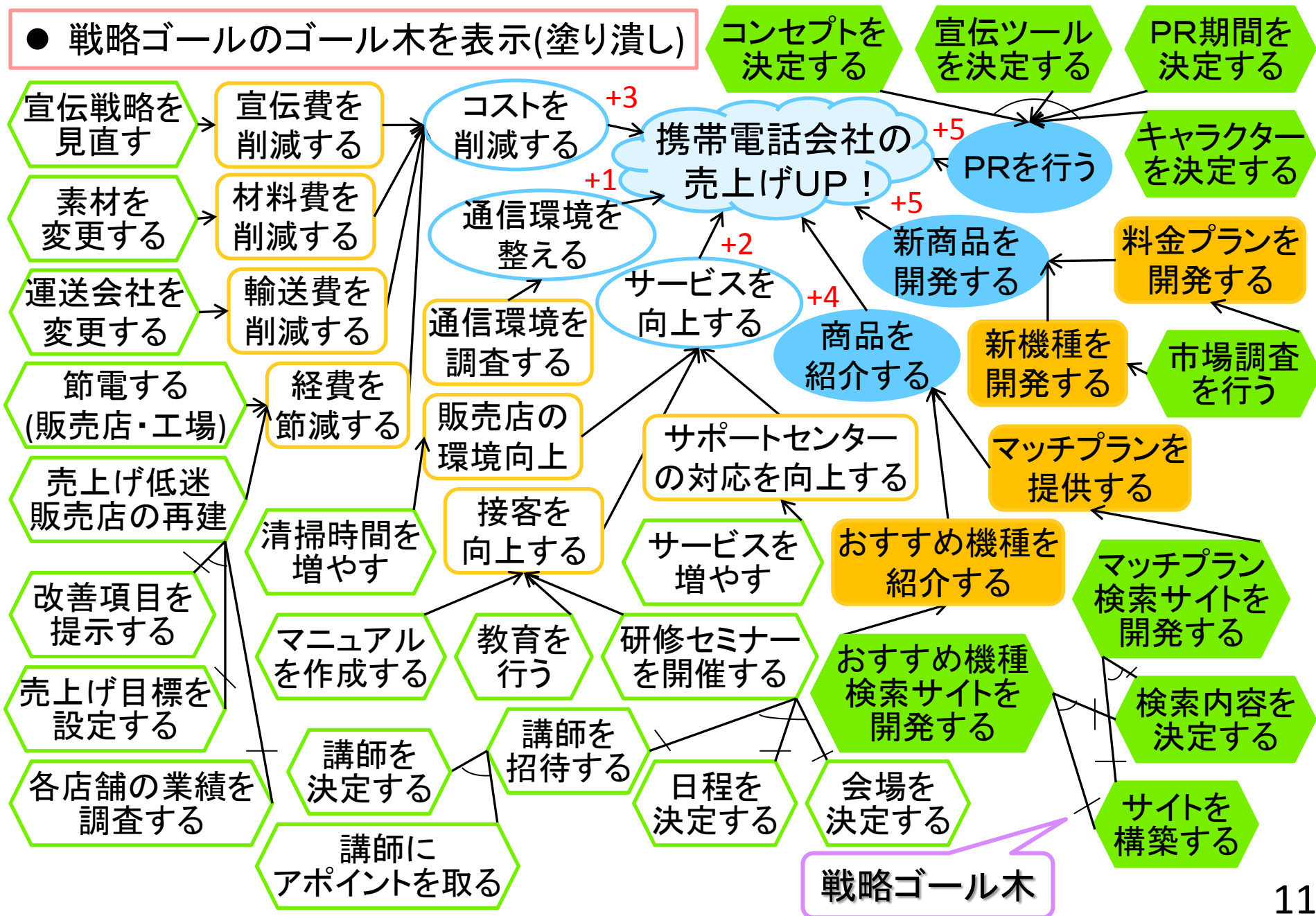
(3) 戦略ゴールの決定[1/2]

● 戦略ゴールの決定(参考:前頁評価値)



(3) 戦略ゴールの決定[2/2]

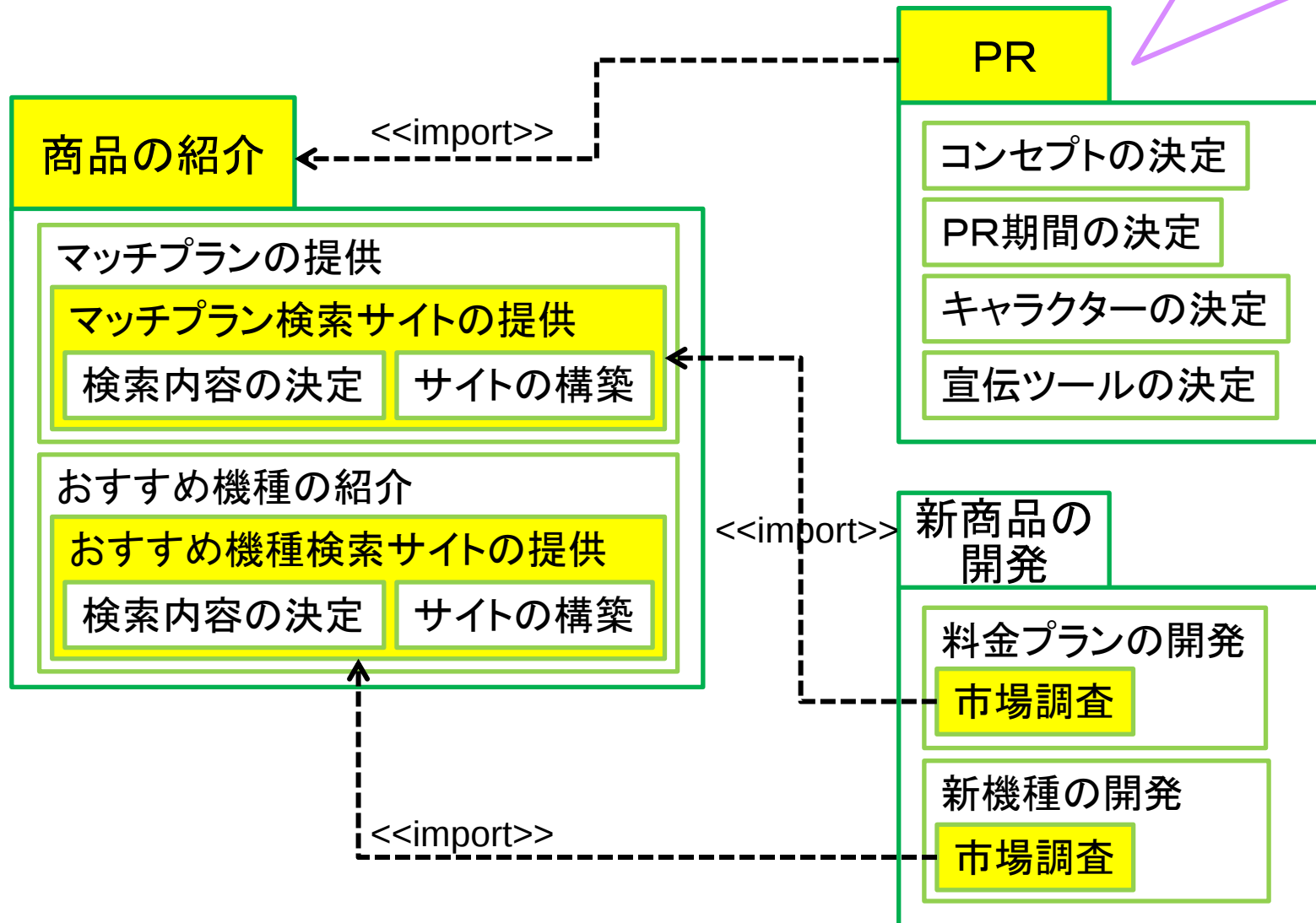
- 戦略ゴールのゴール木を表示(塗り潰し)



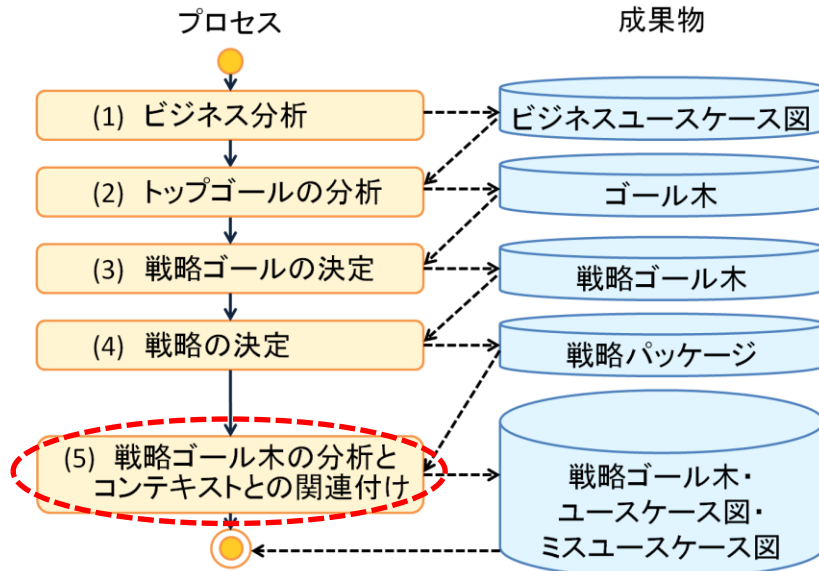
(4) 戦略の決定

- 各要素の依存関係をユースケースパッケージで表す

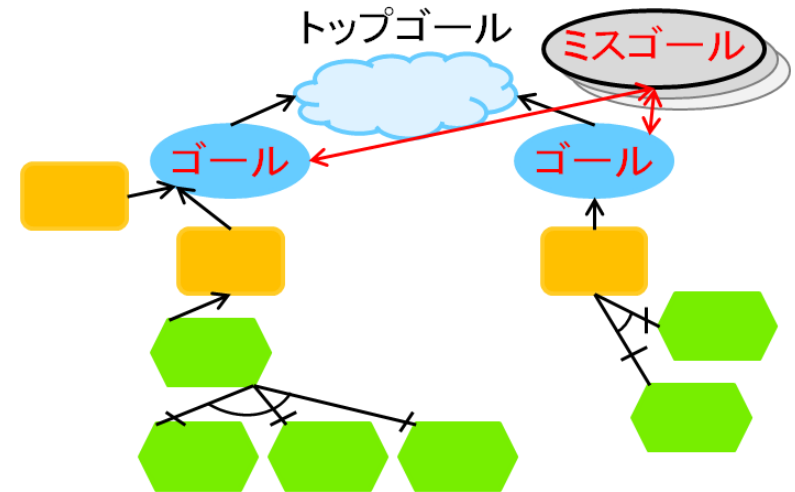
戦略パッケージ
➤ ステークホルダ間での、**戦略ゴールの確認**に利用



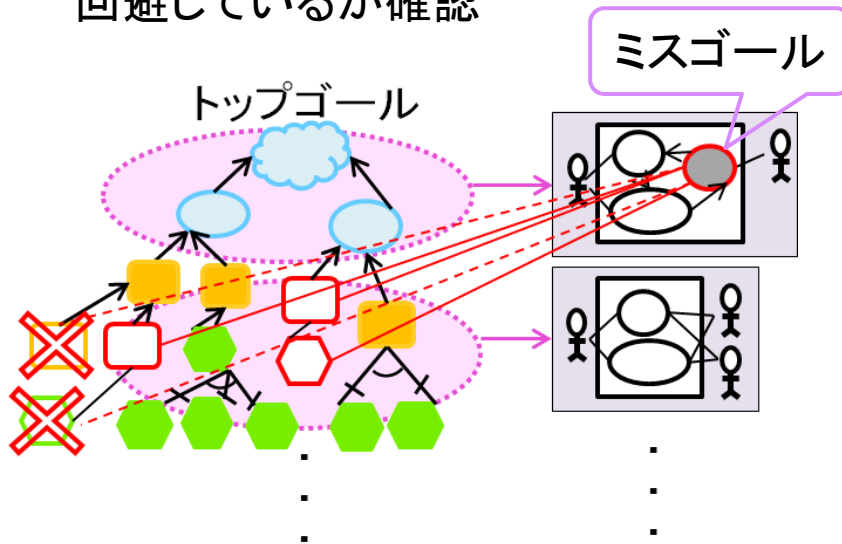
ゴール整合プロセス★(5)



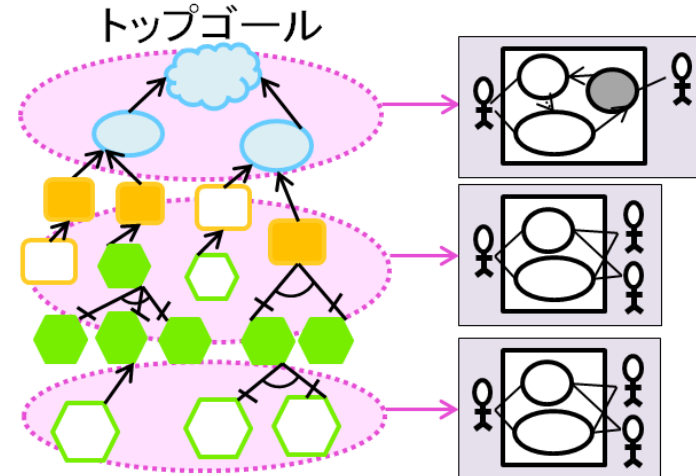
1. 戦略ゴールに対比したミスゴールの設定



2. 戦略ゴール木を分析し、ミスゴールを回避しているか確認



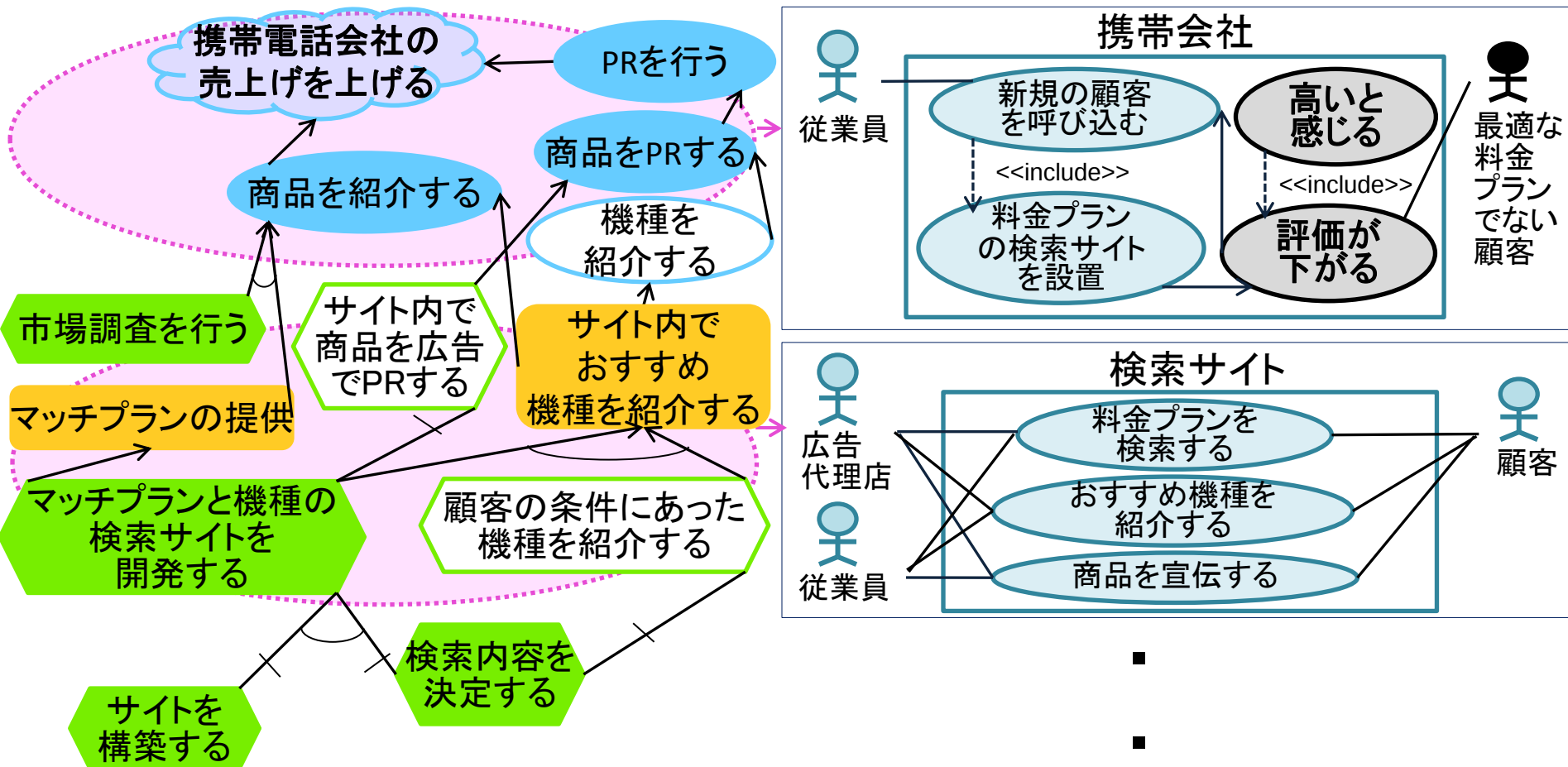
3. 戦略ゴール木とコンテキストを関連付けゴールの整合を行う



(5) 戦略ゴールの詳細化とコンテキストとの関連付け[1/3]

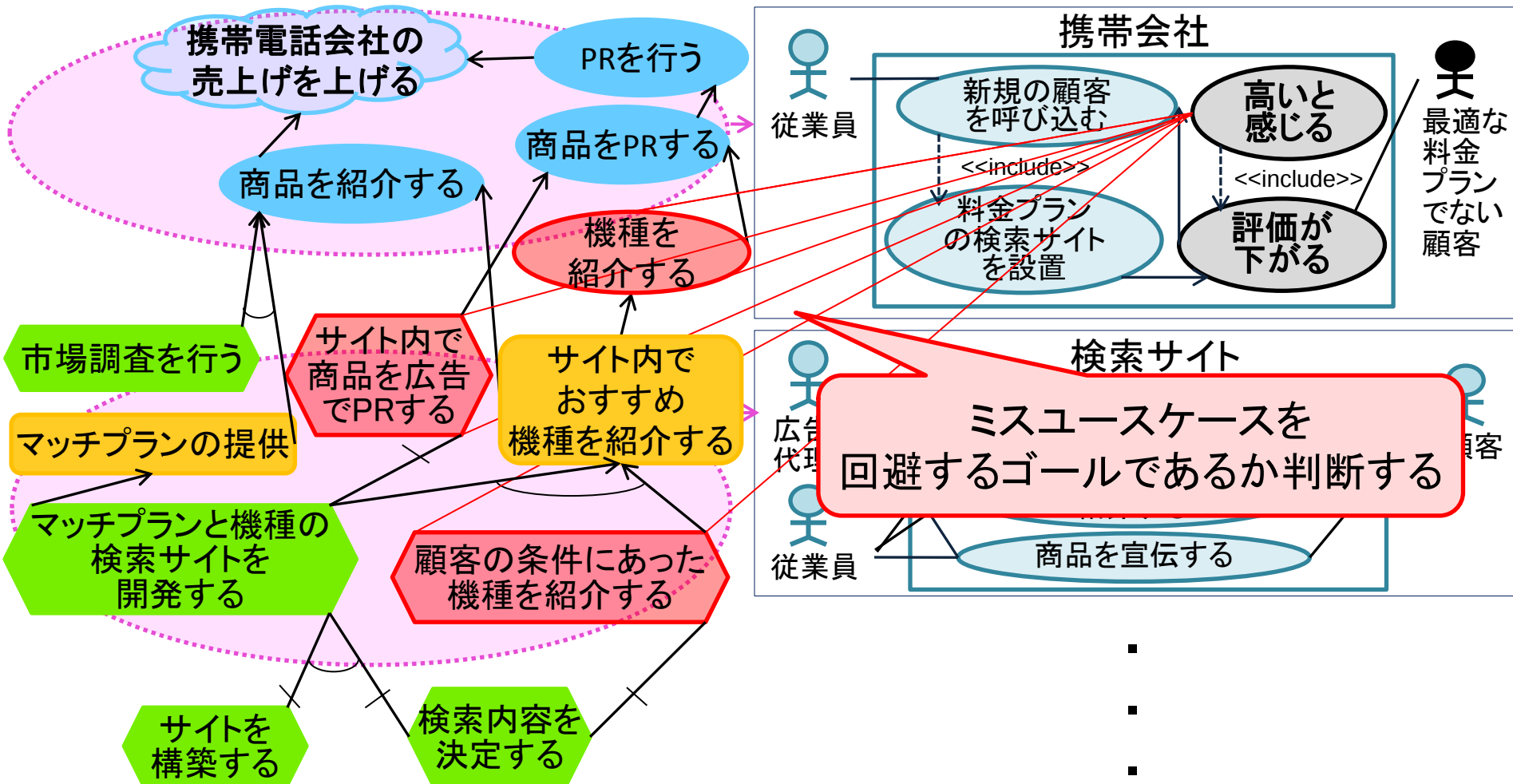
- 戦略ゴール木を詳細化・ユースケース図とミスユースケース図でゴールを整合

- ゴールと関連付けるコンテキストを同時に詳細化



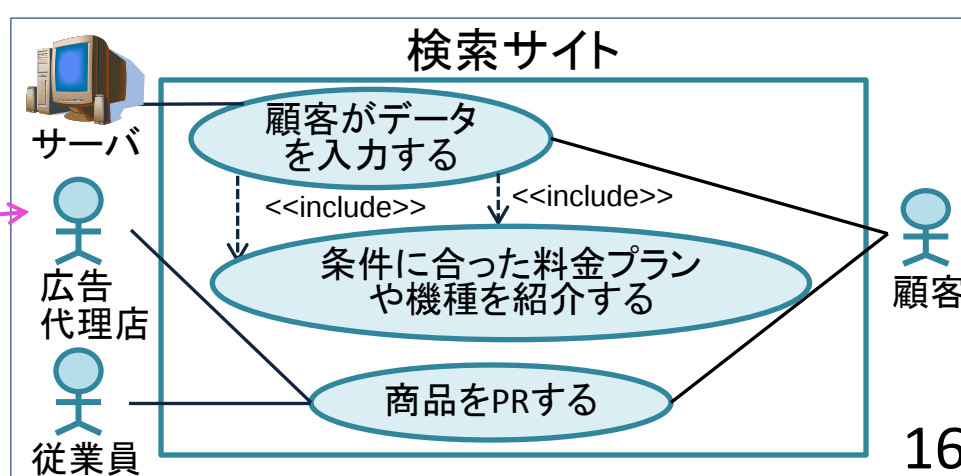
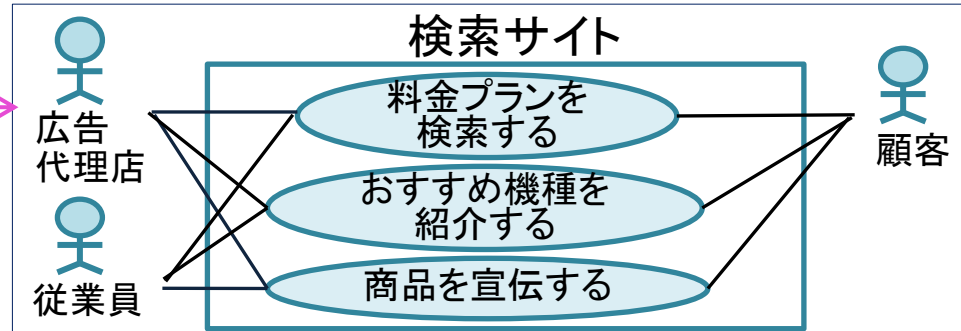
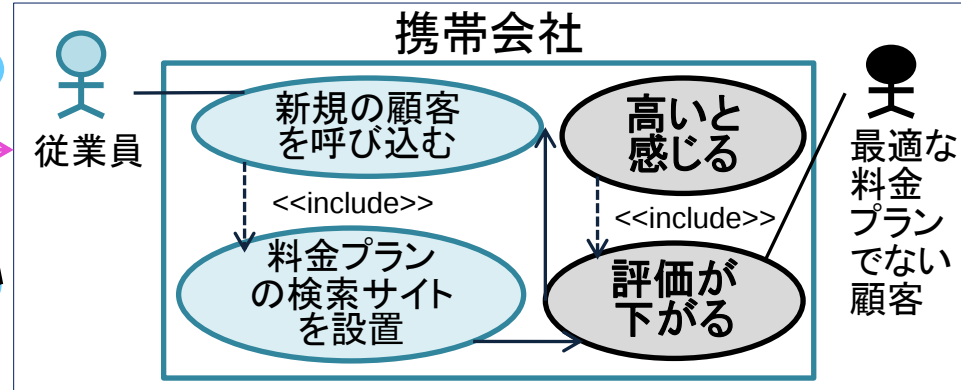
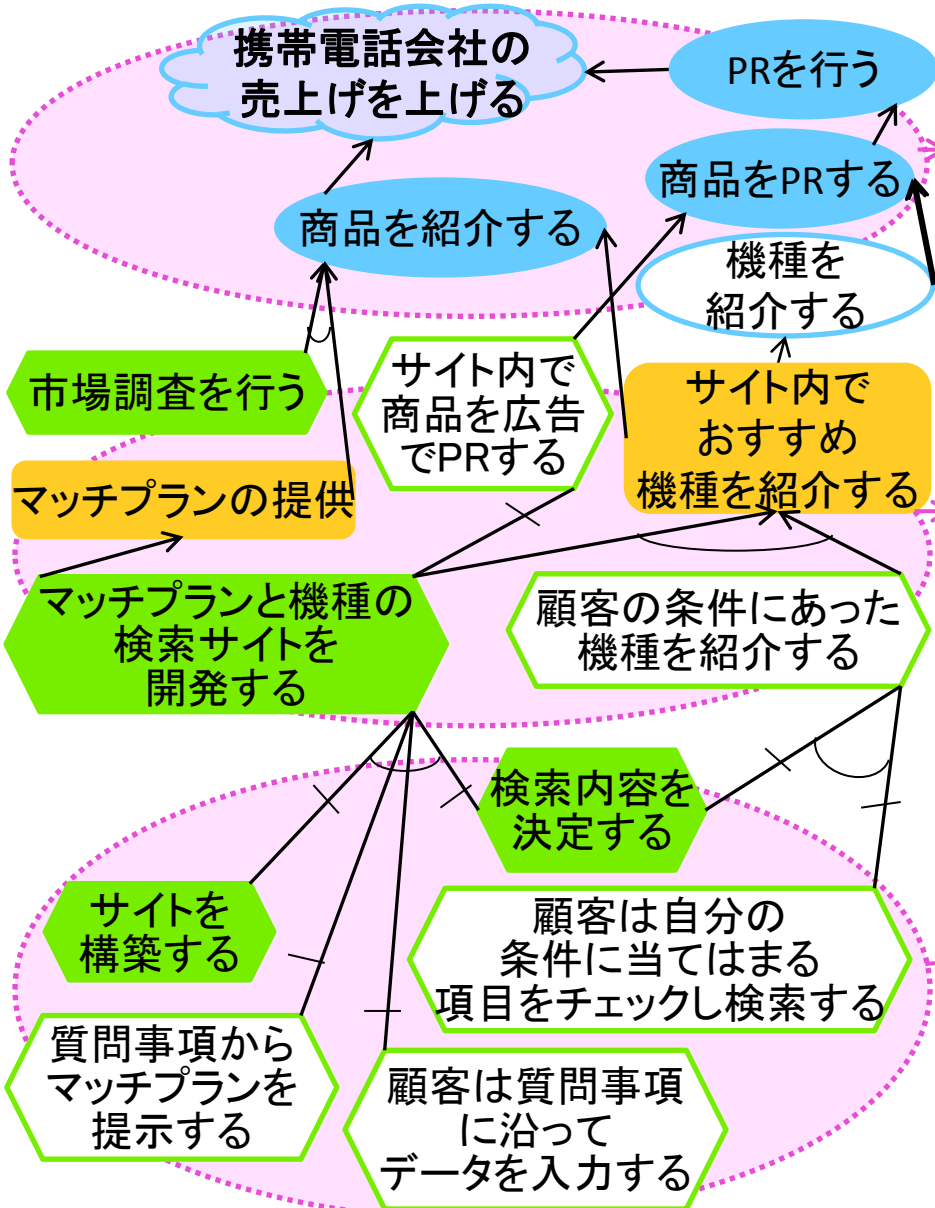
(5) 戦略ゴールの詳細化とコンテキストとの関連付け[2/3]

- 戦略ゴール木を詳細化・ユースケース図とミスユースケース図でゴールを整合
- 具体的な手段となるゴールがミスユースケースを回避しているか確認



(5) 戦略ゴールの詳細化とコンテキストとの関連付け[3/3]

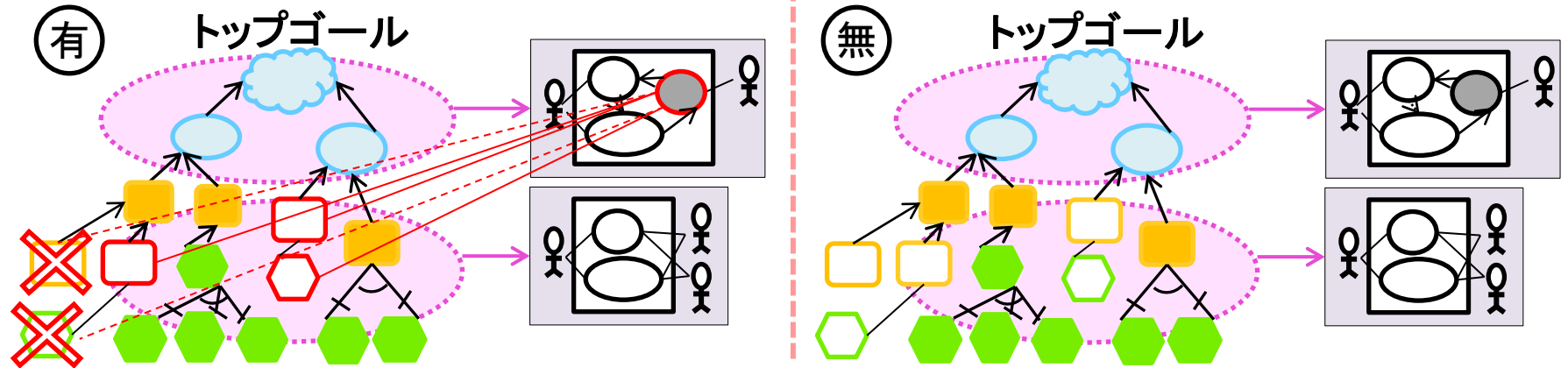
- 戦略ゴール木を詳細化・ユースケース図とミスユースケース図でゴールを整合



今後の課題

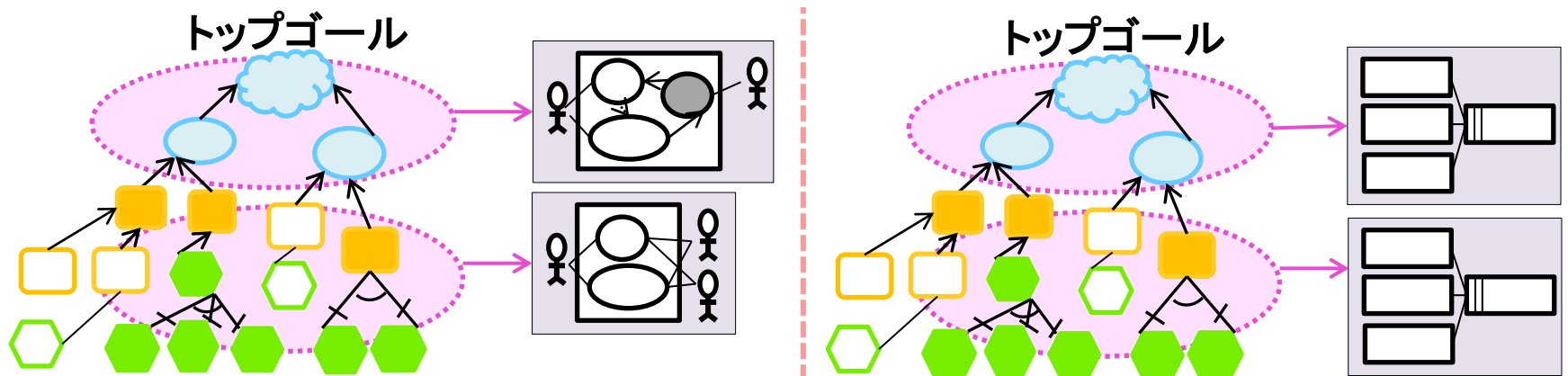
➤ 評価(1)

→ ミスユースケースとゴールの整合の有無で比較を行う



➤ 評価(2)

→ 評価(1)後、B-SCPとの比較を行う



コンテキストを中心とする ゴール整合方法の提案

—END—

南山大学 数理情報学部 情報通信学科

2008MI252 津川 夏海

2008MI261 和田 百世

指導教員 青山 幹雄